

不二製油グループ本社（株） 決算補足資料

2022年度（2023年3月期）

- 第1四半期 -

ページ	項目
1	表紙
2	0-1 : 注記 / 為替情報
3	1-1 : 2022年度 連結業績 1Q
4	1-2 : 2022年度 連結業績 1Q（事業別・所在地別マトリクス）
5	2-1 : 主な指標
6	3-1 : 2022年度 連結業績予想

0-1 : 注記 / 為替情報

注記情報

・一部製品のセグメントの変更による遡及修正

2021年度より、一部製品を大豆加工素材セグメントから乳化・発酵素材セグメントへ組み替えています。
その為、2020年度の数値を参考値として遡及修正して表示しています。

主な為替レート

・P/L : 期中平均レート、B/S : 期末レート

		2021年度	2021年度	2022年度	対前期比		2022年度 計画前提
		1Q	期末	1Q	差	増減率	
\$	P/L	109.49	112.38	129.57	+20.08	+18.3%	125.00
	B/S	110.58	122.39	136.68	+14.29	+11.7%	-
BRL	P/L	20.72	21.10	26.34	+5.62	+27.1%	19.52
	B/S	22.11	25.83	26.10	+0.27	+1.0%	-
€	P/L	131.96	130.56	138.12	+6.16	+4.7%	132.00
	B/S	131.58	136.70	142.67	+5.97	+4.4%	-
人民元	P/L	16.96	17.51	19.58	+2.62	+15.4%	17.17
	B/S	17.11	19.26	20.38	+1.12	+5.8%	-

・P/Lは前年同期、B/Sは前年度期末（2021年度末）を比較

・2022年度1Qのブラマーに適用した為替レート(\$)は、P/L 119.91、B/S 128.65

1-1： 2022年度 連結業績 1Q

●業績概要

売上高 1,279億円（前年同期比+292億円）、営業利益 24億円（前年同期比▲17億円）

売上高：原材料価格の上昇に対応した販売価格改定及び為替円安の影響により292億円の増収になりました。
 営業利益：販売価格の改定を行い原材料価格上昇分はカバーしたものの、北米油脂工場の稼働に伴う経費の増加や連結調整の前期比悪化等により17億円の減収となりました。

（単位：億円）



	FY2021 1Q実績	FY2022 1Q実績	前年同期比 増減額	増減要因(対前年同期比較)	
売上高	植物性油脂	290	492	+201	主原料であるパームなどの原材料価格の上昇に加え、北米新工場の稼働、為替円安の影響等により増収。
	業務用チョコレート	417	479	+62	原材料価格の上昇に伴う販売価格の上昇及び為替円安の影響等により増収。
	乳化・発酵素材	190	225	+36	中国でのマーガリンの販売数量の増加、原材料価格上昇による販売価格改定により増収。
	大豆加工素材	90	83	▲7	中国大豆たん白食品事業の譲渡、日本での販売数量の減少により減収。
	合計	987	1,279	+292	
営業利益	植物性油脂	21	16	▲5	【△】東南アジアでの堅調な販売。 【▽】原材料価格上昇による採算性の低下、北米新工場の稼働に伴う経費の増加。
	業務用チョコレート	11	10	▲2	【△】欧州、オーストラリア、インドネシアでの販売数量の増加。 【▽】日本での流通菓子、冷菓向けの販売数量減少。
	乳化・発酵素材	7	2	▲4	【△】日本での大手パン向けフリリングや外食チェーン向けスポット需要の獲得。 【▽】東南アジア、中国での採算性の低下。
	大豆加工素材	11	6	▲5	【△】日本での大豆たん白食品の伸長。 【▽】日本での大豆たん白素材、機能剤の販売数量の減少により減収。
	グループ管理費用	▲9	▲10	▲1	
	合計	41	24	▲17	
営業利益率	4.2%	1.9%	▲2.3pt		
経常利益	37	34	▲4	営業外収益での為替差益計上。	
親会社株主に帰属する四半期純利益	35	19	▲17	前期計上のシンガポールにおける固定資産売却益の剥落及びブラジルにおける還付税金の特別利益の減少。	

*上記の連結業績は億円未満を四捨五入した数値を記載しております。

1-2 : 2022年度 連結業績 (1Q/事業別・所在地別マトリクス)

(単位:百万円)

売上高	年度※	日本		米州		東南アジア		中国		欧州		連結計	
		実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比
植物性油脂	FY2022 1Q	12,853	+3,284	18,892	+9,839	9,187	+4,476	902	+159	7,341	+2,382	49,177	+20,139
	FY2021 1Q	9,569	+1,236	9,053	+2,055	4,711	+1,139	743	+153	4,959	+2,139	29,037	+6,722
	FY2020 1Q	8,333	-	6,998	-	3,572	-	590	-	2,820	-	22,315	-
業務用チョコレート	FY2022 1Q	9,474	+567	32,108	+4,289	3,688	+1,015	1,015	▲141	1,611	+500	47,897	+6,228
	FY2021 1Q	8,907	+1,414	27,819	+3,412	2,673	+689	1,156	+350	1,111	+463	41,668	+6,328
	FY2020 1Q	7,493	-	24,407	-	1,984	-	806	-	648	-	35,340	-
乳化・発酵素材	FY2022 1Q	13,692	+1,281	-	-	3,782	+1,031	5,059	+1,270	-	-	22,534	+3,581
	FY2021 1Q	12,411	+433	-	-	2,751	+707	3,789	+1,181	-	-	18,953	+2,322
	FY2020 1Q	11,978	-	-	-	2,044	-	2,608	-	-	-	16,631	-
大豆加工素材	FY2022 1Q	8,056	▲446	-	-	-	-	262	▲254	-	-	8,318	▲700
	FY2021 1Q	8,502	+593	-	-	-	-	516	+47	-	-	9,019	+640
	FY2020 1Q	7,909	-	-	-	-	-	469	-	-	-	8,379	-
売上高計	FY2022 1Q	44,077	+4,686	51,000	+14,127	16,658	+6,522	7,239	+1,032	8,953	+2,882	127,928	+29,249
	FY2021 1Q	39,391	+3,676	36,873	+5,468	10,136	+2,534	6,207	+1,732	6,071	+2,603	98,679	+16,012
	FY2020 1Q	35,715	-	31,405	-	7,602	-	4,475	-	3,468	-	82,667	-

上記売上高は外部顧客への売上高を記載しています。

営業利益	年度※	日本		米州		東南アジア		中国		欧州		連結調整		グループ管理費用		連結計	
		実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比
植物性油脂	FY2022 1Q	619	▲229	150	▲410	957	+658	▲40	▲23	169	+20	▲242	▲469	-	-	1,614	▲454
	FY2021 1Q	848	+0	560	+50	299	▲247	▲17	▲41	149	+246	227	+227	-	-	2,069	+237
	FY2020 1Q	848	-	510	-	546	-	24	-	▲97	-	-	-	-	-	1,832	-
業務用チョコレート	FY2022 1Q	1,183	▲214	▲338	▲46	67	+52	▲75	▲55	117	+95	28	+16	-	-	983	▲151
	FY2021 1Q	1,397	+414	▲292	▲1,351	15	+50	▲20	+88	22	▲51	12	▲5	-	-	1,134	▲855
	FY2020 1Q	983	-	1,059	-	▲35	-	▲108	-	73	-	17	-	-	-	1,989	-
乳化・発酵素材	FY2022 1Q	477	+45	-	-	▲448	▲237	▲3	▲255	-	-	190	▲1	-	-	217	▲447
	FY2021 1Q	432	+559	-	-	▲211	▲123	252	+91	-	-	191	+50	-	-	664	+577
	FY2020 1Q	▲127	-	-	-	▲88	-	161	-	-	-	141	-	-	-	87	-
大豆加工素材	FY2022 1Q	553	▲511	-	-	-	-	49	▲49	▲59	+1	29	+12	-	-	573	▲547
	FY2021 1Q	1,064	▲63	-	-	-	-	98	▲115	▲60	▲35	17	+82	-	-	1,120	▲130
	FY2020 1Q	1,127	-	-	-	-	-	213	-	▲25	-	▲65	-	-	-	1,250	-
連結調整	FY2022 1Q	57	+18	▲3	+4	4	+5	10	▲8	▲153	▲185	72	+154	-	-	▲11	▲11
	FY2021 1Q	39	+16	▲7	▲4	▲1	+13	18	+21	32	▲19	▲82	▲29	-	-	-	-
	FY2020 1Q	23	-	▲3	-	▲14	-	▲3	-	51	-	▲53	-	-	-	-	-
グループ管理費用	FY2022 1Q	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲1,002	▲132	▲1,002	▲132
	FY2021 1Q	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲870	+24	▲870	+24
	FY2020 1Q	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲894	-	▲894	-
営業利益計	FY2022 1Q	2,891	▲891	▲193	▲456	581	+479	▲58	▲389	75	▲68	79	▲287	▲1,002	▲132	2,374	▲1,744
	FY2021 1Q	3,782	+927	263	▲1,303	102	▲305	331	+43	143	+142	366	+326	▲870	+24	4,118	▲147
	FY2020 1Q	2,855	-	1,566	-	407	-	288	-	1	-	40	-	▲894	-	4,265	-

*2021年度から、大豆加工素材事業に含まれていた豆乳及びUSS豆乳製品を乳化・発酵素材事業に変更したため、2020年度実績を遡及修正して表示しています。

2-1:主な指標

大項目	項目	単位	備考	2020	2021	2022(累計実績)				2022 予想
						1Q	2Q	3Q	4Q	
PL項目	営業利益	億円		179	150	24				165
	営業利益成長率	%		*2	▲16.2%	▲42.3%				+9.9%
	EBITDA	億円		343	324	71				349
	設備投資	億円	有形固定資産の設備投資	208	173	57				200
	減価償却	億円	有形固定資産の減価償却費	118	127	34				138
	ROA	%	経常利益÷総資産	4.8%	3.7%	3.0%				3.7%
	ROE	%	売上高純利益率×総資産回転率 ×財務レバレッジ	7.0%	6.6%	3.8%				5.5%
	売上高純利益率	%	当期純利益÷売上高	3.0%	2.7%	1.5%				2.2%
	総資産回転率	回	売上高÷総資産	1.01	1.12	1.15				1.19
	財務レバレッジ	倍	総資産÷自己資本	2.2	2.2	2.3				2.2
	ROIC	%	営業利益×(1-法人税率)÷(有利子負債+自己資本)	4.3%	3.1%	1.7%				3.3%
	BS項目	総資産	億円		3,585	4,166	4,756			
有利子負債		億円		1,313	1,488	1,720				1,455
NET有利子負債		億円		1,108	1,328	1,519				1,305
NET運転資本		億円		697	805	865				882
自己資本比率		%		44.6%	44.7%	43.2%				45.6%
負債比率		%		122.2%	121.9%	127.3%				115.6%
のれん(広義)		億円	のれん(広義)とは、のれんに加え、商標権、 その他無形固定資産等を含んだもの	466	499	586				541
のれん償却額		億円		21	22	6				21
のれん(広義)純資産比率		%		29%	26%	27%				26%
D/Eレシオ		倍	有利子負債÷自己資本	0.82	0.80	0.84				0.74
Net D/Eレシオ		倍	Net有利子負債(有利子負債-現預金) ÷株主資本	0.63	0.73	0.82				0.69
CF項目		営業キャッシュフロー	億円		382	35	▲115			
	投資キャッシュフロー	億円		▲174	▲188	▲28				▲186
	フリーキャッシュフロー	億円		208	▲153	▲143				71
	財務キャッシュフロー	億円		▲199	94	155				▲80
	CCC	日		107	115	116				108

*1 過年度の実績値を遡及修正した場合は、当資料も遡及修正後の数値に基づき再表示しております。

*2 FY2020の営業利益成長率：FY2019が15か月決算のため非表示。

*3 FY2022.1QのROA、ROE、ROIC：年間換算した参考値を記載。

※補足：主な設備投資

年度	主な投資項目	億円
2022	日本 阪南事業所の設備更新等	20
1Q	米州 ハラルド第2工場建設等	11
	中国 クリーム工場建設等	6
	米州 プラマー設備投資等	5
	計	57

株主還元

株主還元方針

- ・配当性向30-40%
- ・安定かつ継続的な配当の実施

1株当たりの配当金の推移 (単位：円)

年度	中間配当	期末配当	合計	配当性向
2014	13	17	30	27.6%
2015	17	18	35	32.6%
2016	22	22	44	31.2%
2017	23	25	48	30.0%
2018	25	25	50	37.1%
2019	27	29	56	29.4%
2020	26	26	52	40.6%
2021	26	26	52	38.9%
2022 予想	26	26	52	42.6%

3-1 : 2022年度 連結業績予想

2022年度上期は、売上高2,300億円、営業利益70億円、親会社株主に帰属する当期純利益44億円を計画。
 2022年度上期予想に対する第1四半期時点での進捗率は、売上高56%、営業利益34%、当期純利益42%となっています。
 通期計画の達成に向けて、引き続き販売価格の適正化、コスト削減、成長戦略の実行を進めます。

(単位：億円)

	FY2022 1Q 実績	FY2022 上期 業績予想	FY2022 上期 進捗率	FY2022 通期 業績予想	FY2022 通期 進捗率
売上高	1,279	2,300	56%	4,800	27%
営業利益	24	70	34%	165	14%
経常利益	34	67	50%	158	21%
親会社株主に帰属する 当期純利益	19	44	42%	105	18%

不二製油グループ本社（株） IR参考資料

2022年度 (2023年3月期)

- 第1四半期 -

ページ	項目
7	表紙
8	FY2022 1Q Pickup : 各エリアのマーケットの状況と販売動向
9	IR補足① : 主要製品群の販売数量推移 (前年同期比)
10	IR補足② : 主要原料チャート (2022年7月22日まで)
11	IR補足③ : 主なトピックス、ピックアップ

FY2022 1Q Pickup : 各エリアのマーケットの状況と販売動向

エリア	1Q（2022年4-6月）マーケット状況と販売動向
日本	<p>業務用チョコレート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原材料価格の上昇等により、流通菓子・冷菓向けの需要が減少。 ・土産菓子向けの販売状況は、エリア・顧客によって様々。
	<p>乳化・発酵素材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マリトッツォブームが一巡するも、大手パン向けフィリングや外食チェーン向けのスポット需要獲得によりカバー。
	<p>大豆加工素材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭用冷凍食品での粒状大豆たん白の販売は堅調に推移する一方、プロテイン向けの粉末状大豆たん白素材の販売が減少。
米国	<p>植物性油脂</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニューオリンズの新工場稼働により、販売数量が増加。 ・チョコレートの需要は堅調で、流通菓子向けにチョコレート用油脂の販売は伸長。
	<p>業務用チョコレート(1Q:2-4月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カカオ製品の数量は減少するも、チョコレート製品の販売数量は計画通り進捗。
ブラジル	<p>業務用チョコレート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流通菓子向けの販売が伸長。
東南アジア	<p>業務用チョコレート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(1Q:1-3月) オーストラリアでは、ベーカリー向けの販売は堅調に推移。 ・インドネシアでは、フードサービス向けの販売が2021年4-6月比で回復。
中国	<p>乳化・発酵素材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロックダウンによる影響はあったが、全国での販売は底堅く推移。
欧州	<p>業務用チョコレート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土産市場向けの販売が堅調に推移。

IR補足①：主要製品群の販売数量推移（前年同期比）

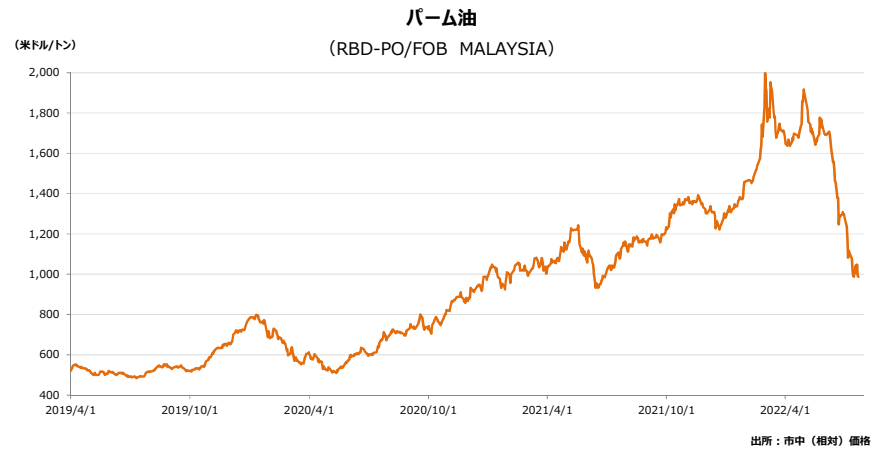
セグメント	エリア	製品群	2020年度 実績(*2)							2021年度 実績							2022年度 実績							2022年度 1Qポイント		
			1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	Total	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	Total	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	Total			
植物性油脂	日本	チョコレート用油脂	111%	98%	104%	98%	101%	99%	101%	96%	102%	99%	102%	98%	100%	100%	111%								大袋サイズの流通菓子向けの販売伸長。	
	米州		99%	84%	91%	86%	93%	90%	91%	89%	112%	99%	100%	102%	101%	100%	113%								大口顧客向けの需要堅調。	
	東南アジア		80%	78%	79%	96%	86%	91%	85%	93%	98%	95%	96%	103%	99%	97%	107%								インドネシア禁輸によるスポット需要。	
	中国		98%	81%	89%	93%	112%	98%	93%	72%	77%	75%	54%	63%	57%	66%	-*3									
	欧州		69%	86%	78%	80%	136%	103%	91%	180%	153%	164%	135%	104%	118%	137%	109%									底堅い需要により堅調に推移。
	合計		88%	84%	87%	91%	98%	94%	90%	101%	110%	106%	102%	101%	102%	103%	108%									
業務用チョコレート	日本	チョコレート (カカオ製品含む)	94%	94%	94%	95%	105%	100%	97%	114%	106%	110%	104%	97%	101%	105%	100%								冷菓向けが減少も前年並み。	
	米州(ブラジル)		47%	114%	84%	100%	114%	106%	98%	218%	123%	147%	102%	121%	111%	123%	112%								流通菓子向けの販売が伸長。	
	東南アジア		82%	92%	87%	95%	105%	100%	94%	117%	110%	113%	106%	106%	106%	109%	105%								オーストラリアでのベーカリー向け販売が堅調に推移。	
	中国		143%	194%	172%	156%	255%	190%	182%	115%	83%	95%	106%	77%	93%	94%	77%								ロックダウンにより主要顧客工場の稼働停止により減少。	
	欧州		77%	81%	79%	89%	110%	99%	88%	152%	125%	137%	152%	129%	139%	138%	120%								土産市場向けの販売が好調。	
	合計(プラマー除く)		79%	103%	92%	100%	113%	106%	99%	133%	112%	120%	106%	108%	107%	113%	104%									
	プラマー		100%	82%	90%	102%	94%	98%	94%	106%	108%	107%	96%	98%	96%	101%	95%									カカオ製品の販売減少。チョコレート製品は前年並み。
	合計(プラマー含む)		-	-	-	-	-	-	-	116%	110%	113%	100%	103%	102%	107%	99%									
乳化・発酵素材	日本	クリーム	87%	97%	92%	102%	101%	101%	97%	119%	108%	113%	106%	99%	103%	108%	97%								前期のマリッツオのプームの反動などにより減少。	
		マーガリン ショートニング	82%	88%	85%	96%	97%	96%	90%	102%	98%	100%	98%	91%	94%	97%	104%								外食向けのスポット需要を獲得し増加。	
	東南アジア	クリーム	69%	109%	89%	99%	90%	96%	92%	157%	72%	105%	79%	124%	97%	101%	84%								好調だった前期からの反動減。	
	中国	マーガリン ショートニング	93%	107%	100%	105%	132%	115%	107%	118%	94%	105%	121%	117%	119%	112%	124%								ベーカリー向けの堅調な需要が継続。	
		フィリング	94%	112%	103%	104%	155%	124%	113%	144%	111%	126%	123%	115%	119%	122%	88%								前期からの反動やロックダウンの影響などにより減少。	
大豆加工素材	日本	大豆たん白素材	108%	108%	108%	106%	106%	107%	106%	103%	104%	102%	102%	102%	103%	96%									プロテイン飲料向けの需要が減少。	
		大豆たん白食品	93%	104%	99%	96%	101%	98%	99%	107%	96%	102%	100%	99%	99%	100%	105%								対前年での給食向けの数量が増加。	
		機能剤	103%	88%	95%	89%	106%	97%	96%	103%	99%	101%	99%	99%	99%	100%	87%								飲料向けの販売が減少。	

*1:製品区分の見直し等により、過年度の実績値を遡及修正した場合は、当資料も遡及修正後の数値に基づき記載しております。

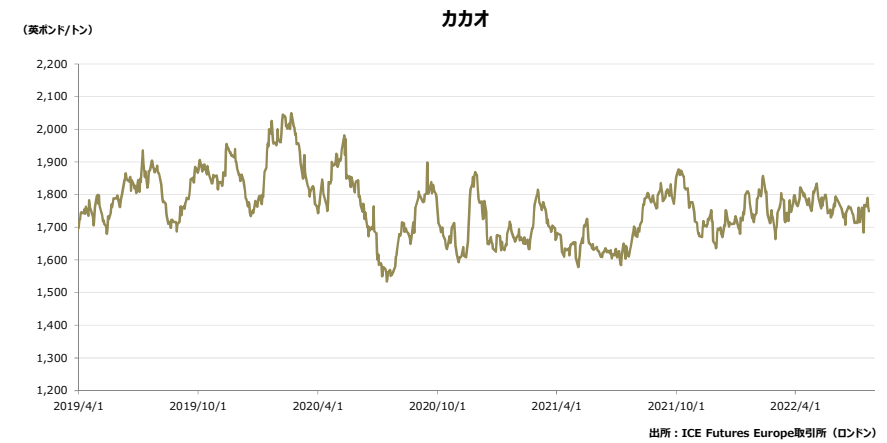
*2:2020年度については、2019年度に決算期を12月から3月に変更した海外グループ会社については、前年同月比で比較しております。

*3:チョコレート用油脂の中国について、数量僅少のため非開示。

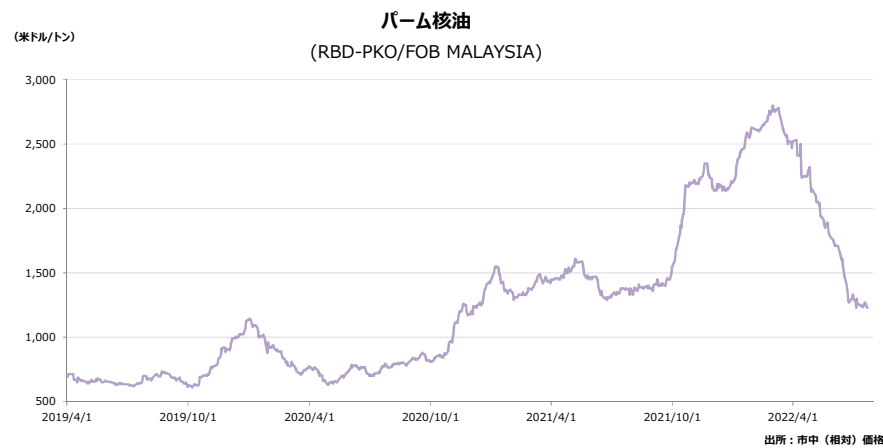
IR補足②：主要原料チャート（2022年7月22日まで）



【市況】
インドネシアのパーム輸出再開や金利の引き上げなどの金融政策などがパーム相場に下落圧力を加えた。
強材料：バイオ燃料の需要動向。不透明なウクライナ情勢。
弱材料：インドネシアのパーム輸出拡大。パーム油増産シーズン入り、在庫高水準。



【市況】
それぞれの強弱の状況によりレンジ相場が続く。トレンドを変える大きな材料はない状況。
強材料：低調なガーナの生産量。世界的な肥料不足。
弱材料：予想を下回った22年Q1磨砕量。世界経済停滞懸念。



【市況】
6月の下落相場が7月に入ってから継続。取引が低調な状況が続いた。
強材料：マレーシアでの外国人労働者不足解消遅れ。北米大豆の作況による植物油価格動向。
弱材料：パーム油、大豆油価格の弱含み。インドネシアのパーム油在庫高水準。



【市況】
米国大豆生産地域における降雨予想や中国経済停滞懸念から相場が下落。
強材料：米国大豆生産地の高温・乾燥傾向の天候による大豆の減産懸念。原油不足による原油価格の上昇。
弱材料：米国での金利上昇に伴う世界経済停滞懸念。中国ロックダウンによる同国の景気減速。

IR補足③：主なトピックス、ピックアップ

●2022年度 主なトピックス（日付は当社WEBサイトでの公開日）

日付	Topics
2022.4.4	『高度な酸化安定性を付与しDHA・EPA油“プロレア®”の開発と応用展開』が日本農芸化学会の2022年度農芸化学技術賞を受賞
2022.4.5	ESG 指数「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」の構成銘柄に選定
2022.5.9	国内No.1製菓製パンのECサイトcottaと資本業務提携を締結
2022.5.10	不二製油グループ中期経営計画（2022～2024年度）「Reborn 2024」を発表
2022.5.18	佐賀市・佐賀大学・伊藤忠エネクスと共同し、CO ₂ を活用した大豆育成研究プロジェクト開始のお知らせ
2022.7.7	プラントベースフード戦略説明会を開催

日付	Topics
----	--------

●ピックアップ

製菓製パンのECサイトcottaと資本業務提携を締結

会員数170万人を抱える日本最大級の製菓製パン材料のECポータルサイトを運営する株式会社cottaと資本業務提携を締結しました。
注目の集まるプラントベース製品において、cottaと共に市場を活性化し、需要の創造、拡大を目指します。

cotta



CO₂を活用した大豆育成研究プロジェクト開始

不二製油グループ本社は、佐賀市、佐賀大学、伊藤忠エネクスと共同でCO₂を活用した大豆の育成研究プロジェクトを開始しました。
CO₂を吸収することにより成長が早まる大豆の特性を活かした効率的な大豆の生育を研究することを目的とし、佐賀大学の実験施設において実証試験を開始します。



収穫された大豆（イメージ）

プラントベースフード戦略説明会を開催

不二製油グループが全社を挙げて注力するフラッグシップの発表、およびプラントベースメニューの試食会をホテルニューオータニ（東京）で開催しました。
これまで培ってきた素材と技術の融合によりプラントベースの可能性を広げ、進化したおいしさを体験いただける場となりました。

